

# 28G-pm09

アスヒカズラより単離した新規リコポジウムアルカロイドの構造

○石内 勘一郎<sup>1</sup>, 久保田 高明<sup>1</sup>, 柴田 敏郎<sup>2</sup>, 小林 淳一<sup>1</sup> (<sup>1</sup>北大院薬, <sup>2</sup>国立衛研・北海道)

【目的】ヒカゲノカズラ科(Lycopodiaceae)植物は多彩な環骨格を有するリコポジウムアルカロイドを含むことで知られている。これらの環骨格は、大きく  $C_{16}N_1$ ,  $C_{16}N_2$ ,  $C_{27}N_3$  の3つのタイプに分類される。今回、アスヒカズラ(*L. complanatum*)のメタノール抽出物について、新たな骨格を有するアルカロイドの探索を行った結果、新規アルカロイド **1-2** を単離し、構造を明らかにしたので報告する。

【方法・結果】*L. complanatum* の全草のメタノール抽出物を、酢酸エチルと 3%酒石酸水溶液で分配した。水溶性画分を塩基性にし、得られたクロロホルム可溶性画分の一部を LH-20、FL100D カラム、C18 HPLC で分離・精製し、新規アルカロイド **1** と **2** を得た。二次元 NMR、MS スペクトルの詳細な解析により、**1** と **2** は、それぞれ  $C_{20}N_3$ ,  $C_{20}N_2$  の新しいタイプのアルカロイドであることがわかった。立体化学については、NOESY スペクトルより母核の相対立体配置まで推定した。現在、化合物 **1** の 17 位の立体化学、および生物活性について検討中である。

